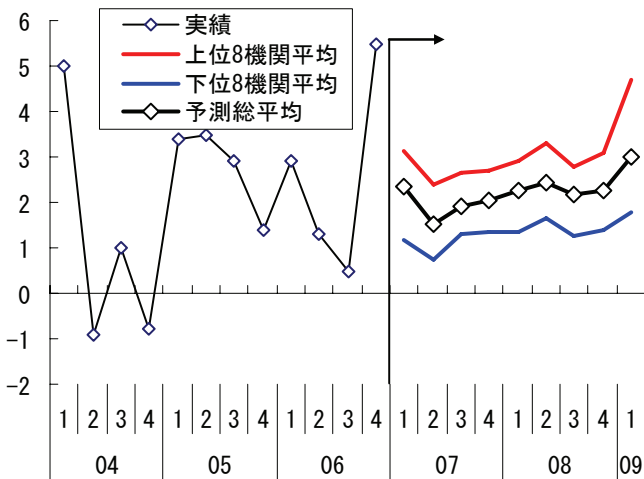


指標名：ESPフォーキャスト調査(2007年5月) 発表日：2007年5月11日(金)  
 ～CPIは7-9月期まで小幅マイナスとの見方がコンセンサス～

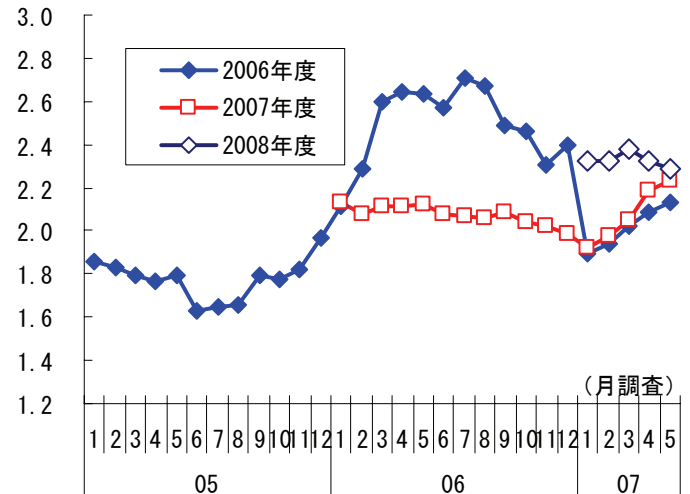
第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主任エコノミスト 新家 義貴(03-5221-4528)

(図1) 実質GDP予測(前期比年率、5月調査、%)



(図2) 実質GDP予測値総平均の推移(前年比、%)



(出所) 経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

## ○ 1-3月期は潜在成長率を上回る伸びがコンセンサス

本日、経済企画協会から5月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、36のエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価の予測を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる。なお、今月調査の回答期間は4月25日から5月7日である。

2006年度の実質GDP成長率予測は+2.13%(4月+2.09%)と、前回調査から若干上方修正された。これは、2007年1-3月期の成長率見通しが前期比年率+2.36%(4月+1.76%)と上方修正されたためである。数ヵ月前までは、1-3月期のGDPは10-12月期の高成長の反動から低成長にとどまるとの見方が多かったのだが、実際に公表された経済指標では個人消費や外需を中心に予想以上に底堅い結果を示すものが多かったことから、10-12月期に続いて潜在成長率を上回る成長が実現可能との予想がコンセンサスになってきた。

なお、4-6月期以降の成長率見通しは前回からほとんど修正されていない。4-6月期に同+1.52%と成長が鈍化した後、7-9月期以降は緩やかに伸びを高める姿が想定されている。平均的なシナリオは「2007年前半には海外経済の鈍化やIT分野の調整等から景気モメンタムが弱まるが、軽微な減速にとどまる。年後半以降は米国経済の持ち直しやIT分野の調整一巡から、景気は再び回復感を強める」というものである。

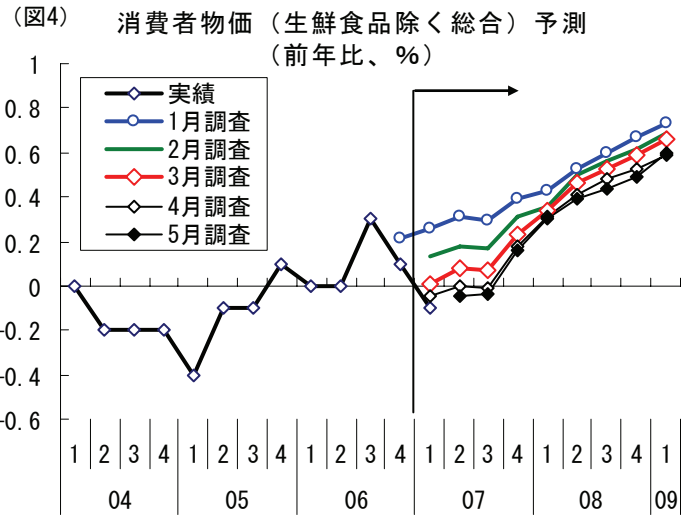
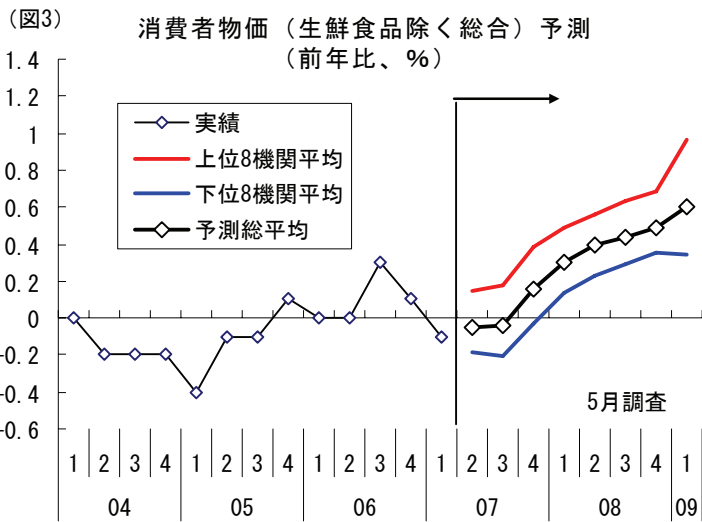
また、2007年度の実質GDP成長率予測は+2.23%(4月+2.19%)と小幅上方修正、2008年度は+2.29%(4月+2.32%)と小幅下方修正された。2003年度から数えて6年連続で2%を超える成長が予想されているということになる。

## ○ 利上げ予想は8-11月に集中

日本銀行の次回利上げ時期についての質問に対しては、8月が8人、9月が9人、10月が9人、11月が6人と、8月-11月が32人と回答が集中した。その他の回答は、6月が1人いるのみである。

○ CPIは7-9月期まで小幅マイナスとの見方が増える

消費者物価指数（コア）の予測値は、2007年度が+0.09%（前回+0.13%）、2008年度が+0.46%（前回+0.49%）と前月からやや下方修正された。日本銀行の展望レポートで示された政策委員見通しの中央値（2007年度+0.1%、2008年度+0.4%）と一致している。4月27日に公表された3月の全国消費者物価指数（生鮮食品除くコア）でマイナス幅が拡大したことなどを受け、物価については先行きかなり慎重な見方が増えているようだ。なお、四半期で見ると、2007年4-6月▲0.05%（前回0.00%）、7-9月▲0.04%（前回▲0.01%）と、7-9月期まで消費者物価は小幅マイナスで推移するとの見方がコンセンサスである。



資料5 日銀の次回金利引き上げの時期

	2007年												2008年			計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月以降	無回答		
回答数	0	1	0	8	9	9	6	0	0	0	0	0	0	2	35	

（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。